

民主化闘争情報

No. 815
2011年2月18日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

2月18日発売の『新潮45』3月号に「『枝野官房長官と革マル派』疑惑の深層」と題する記事で、JR総連の意向を受けた民主党議員らが警察捜査へ圧力をかけた問題を指弾している。

激震走る「JR総連シンパ民主党議員による警察捜査圧力問題」! 民主党はJR総連との関係を清算し疑念を晴らすべき!

同問題は、『週刊文春』2月17日号においても掲載された他、2月10日の衆議院予算委員会において、自民党の平沢勝栄議員が枝野官房長官に対して詳細にわたり質問するなど、大きな政治問題となっている。記事の内容は次のとおりである。

2005年12月16日午前11時過ぎ。衆議院第2議員会館、第3会議室に激しいやりとりの声が響きわたった。この日開催された或る「ヒヤリング」の席的一幕である。会議室に集まったのは4名の衆議院議員と3名の参議院議員（いずれも民主党所属）たち。彼らの前に「説明者」として呼び出されたのは、厚生労働省から大臣官房国際課の課長補佐ならびに国際労働機関第一係、警察庁から警備局公安課極左対策室長、法務省から刑事局付検事など計4名の官僚たちである。

このヒヤリングに先立つ11月29日、議員会館の各議員宛てに「厚生労働省等ヒヤリングの開催について」と銘打たれた文書が投函された。この文書によればヒヤリング開催の趣旨はこう書かれていた。「JR東労組組合員7名に対する政治弾圧（「JR浦和電車区事件」）をめぐる、ILOは11月17日に2次勧告を採択しました。ILOは1次勧告に引き続き司法・警察当局の不当性を指摘しています。このたびは1次勧告ならびに2次勧告の即時履行に向けて、厚生労働省等の関係者からお話しを伺います」。そして、問い合わせ先として、JR総連の政治部長の電話番号が記されている。つまり、この「ヒヤリング」は、JR総連が、自分たちが「政治弾圧」と主張する「JR浦和電車区事件」に関し関係当局の考えを問いたです、という趣旨のもとに開催された集会だったのである。

…この「ヒヤリング」に出席した議員の話聞いてみよう。

「当時、JR総連の役員たちに聞いたところ、『自分たちは革マルとは違う』ということでしたし、JR総連に限らず、民主党は労働組合とはお付き合いがありますから、その関係の中でヒヤリングに出席しました。この時点では、彼らは革マルでない、という認識でした。今後は、JR総連、JR東労組が革マル派かどうか、もう一度確認しなければならないと思っています。もし、革マルということであれば、距離を置かなければならないと思っています」（T参議院議員）

「2005年は秋に初当選して日が経っていないので、JR連合の集会の案内と勘違いして出席してしまいました。JRにも連合、総連と色々な組合がありますが、その当時は恥ずかしい話ですが、その違いがわからず、応援していただいたJR連合の集会だと思っていました。会議室に入った時、違和感を感じたのを覚えています。自分が応援してもらっている組織であれば、自分が知っている顔ぶれの議員がいるはずなのにいなかったからです。もちろん、現在では、JR総連、JR東労組の集会等であるならば、出席することはありません」（M衆議院議員）

…「呼びかけ人」に名前を連ねていた民主党議員もこんな感想を漏らす。

「JR総連には選挙の時に支援をして頂いたことに感謝して、呼びかけ人に名前を貸したのですが、当初は、革マル派とのつながりを知らなかったのが、周囲からは大丈夫なのか、と言われました。私も立法府の議員として立法に関わる仕事をするので、役所や関係省庁と話をすることがありますが、捜査中の個別案件について聞くことはありません。捜査当局の判断がある以上、政治家としては見守らなければならないと思っています。だから、刑事事件に口出しはできないとヒヤリングに出席することは控えました」

10日の予算委員会で平沢議員は官房長官の答弁に納得せず、ヒヤリングを受けた官僚らの参考人招致を求めるなど、この問題が収束する気配は見えない。

民主党は、三権分立の原則を揺るがしかねない「警察捜査への圧力」疑惑を解消すべく、今こそJR総連との関係を清算すべきである。民主党政権自体が、政府答弁書で「JR総連及びJR東労組内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している」と認めているのだから。